

令和4年3月31日

DX推進状況

令和3年度

 高知通運株式会社

代表取締役 曾志崎 雅也

DX戦略に対する 定量・定性評価

	No	課題/目的	目標値	実績値 (定量)	実績値 (定性)
DX 1.0	1	「社内コミュニケーションツールの導入・運用」	調整コスト20%減	調整コスト30%減	全社員にスマートフォンを貸与しLINE WORKSを導入したことにより、情報の共有や運行指示等ができるようになった。
DX 1.5	2	「配車業務の形式知化」	空車運行距離 10.0%以上減/月	空車運行距離 12.5%減/月	各担当者が個々に持っていた業務マニュアルを統一し形式知化した事により業務の属人化が減少した。グループ会社の配車情報が見える化するために、グループ共有フォルダ内に情報を集約させた結果、配車を行う際に無駄な動きが少なくなった。
	3	「配車業務のデジタル化」	事務作業総量 1日→2時間	事務作業総量 1日→2時間 ※設計完了済、実装調整中	配車表をデジタル化した結果、荷物・空車情報の共有化ができた（遠隔での閲覧可）。園芸品をトラックに割振りする配車システムと請求システムを連動させた結果、業務を簡素化することができた。
	4	「配車予測の高度化/自動化」	配車人員の作業量 4.0名→3.5名ボリュームへ	配車人員の作業量 4.0名→3.5名ボリュームへ	高知大学との産学連携により自動配車システムを開発し、担当者の経験で行っている事をソフトウェア化を試作できた。
	5	「情報管理ポリシーの制定」	セキュリティインシデント1件未満/月	セキュリティインシデント1件未満/月	情報セキュリティ基本方針の展開により社員へのセキュリティへの理解が高まった。情報セキュリティ対策によりトラブルを未然に防ぐ、トラブル発生時の対処方法がルール化できた。
DX 2.0	6	「車両/ドライバーデータ活用による付加価値創出」	-	-	配車予測に関するデータサイエンス、AI学習と合わせてその他データでの分析トレーニング実施。
	7	「総合物流サービス化へのデジタル環境整備」	-	-	研修中に配車以外のデータ整備を進めるトレーニング及び実践実施。
共通	8	「人材育成」	資格取得者数 ITバスポート：3名以上	資格取得者数 ITバスポート：3名	ITバスポート、情報セキュリティマネジメント試験に継続受験。

社長メッセージ

この1年で得られたことは、ITオタクの私としては、DX化ができたというよりも、遅れていたIT化やIT教育について、10年分の真価があったと感じます。

また、DXだけではなく、社内コミュニケーションや教育、プロジェクトの進め方、会議の仕方、本当に多くのことを学べた一年でした。

代表取締役 曾志崎 雅也